

ASH 参加報告書

公立藤岡総合病院血液内科 内藤千晶

この度は、JALSG Young Investigator ASH Travel Award 2016 に採択いただきまして誠にありがとうございました。

私は、主に Education Program を拝聴いたしました。Follicular Lymphoma の session では、FLIPI2 や m7FLIPI など予後分類について、Lenalidomide を使用した治療成績について、また今後期待される surface marker を標的とした治療薬についてなどを拝聴いたしました。Follicular lymphoma は、低悪性度で年余に渡る管理が必要であるぶん、どのような治療方針が最も患者さんにとって有益なのか悩むことが多い疾患です。治療選択肢が増え、最適な治療を提供できるよう、さらなる研究が期待されると感じました。AML の session では、高齢者 AML の管理についての講演がありました。年齢で評価することが多いですが、糖尿病があると予後不良であることや、高齢であっても認知機能や身体機能を評価し治療を行った場合は予後がよい点があがりました。治療すれば予後が改善する群をしっかりと見極められるよう、今回学んだ assessment を活用しようと感じました。MRD についての講演もありました。治療後の MRD 残存例に対する同種移植の適応や、移植後のモニタリングや免疫抑制剤を中止するタイミングに MRD を活用することが期待されるとのことで、今後の trial が楽しみです。その他、多発性骨髄腫や MCL、ALL などの Education Program を拝聴しました。PD-1 阻害剤や CAR-T といった免疫治療についてのお話が多く、興味深かったです。

Oral session もいくつか拝聴しました。DLBCL に関して、R-CHOP と DA-EPOCH-R の比較試験や、Lenalidomide を併用した治療などが発表されており、世界で行われている study は斬新なものもあり、日本の学会との違いを感じ非常に面白かったです。

世界では様々な臨床試験が進んでいるということ、薬剤開発の発展も目覚ましいことを感じ、と同時に、まだ未知の領域が非常に多いということも実感いたしました。多くの先生がその困難に立ち向かわれており、私もその一員として活動していかなければと、背筋が伸びる思いでした。今診ている患者さんだけでなく、未来の患者さんへの希望となれるよう、尽力していく所存です。このような機会をくださった JALSG の皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。